

東京鳳鳴会 「甲子園へ行ってもらいたい!会」発足

「甲子園シンポジウム」開催

母校の甲子園出場に東京鳳鳴会が物心の支援
悲願達成は如何に。現状を母校の理事長、監督が語る

国民的行事でもある「春の選抜高校野球」夏の高校野球選手権大会へ母校は開校110年を迎える現在、何度か出場のチャンスを掴みかけては涙を飲んできた。東京鳳鳴会ではこの悲願のために「甲子園に

行ってもらいたい!会」を発足させ平行して会員へ「特別寄付金目標200万円」を募集し、物心両面にわたる支援事業をスタートさせた。以下その一環の「甲子園シンポジウム」開催を紙面の都合上、要約



写真上段||「甲子園シンポジウム」会場風景
写真下段左から||菊地靖孝(鳳12)、栗盛信太郎(鳳18)、石川徹(鳳4)、齋藤弘樹(鳳鳴現監督、秋田高校OB)、齋藤誠治(鳳17)の各氏。



して報告する。

▽開催日時||平成20年3月23日(日)午後3時

▽開催会場||ハビネス・ケア四谷▽出演者(以下敬称略)

▼基調講演者(及びパネラー)
阿部政文(鳳鳴24期・元野球部員)

▼パネラーコーディネーター
菊地靖孝(鳳鳴12期・元野球部員)

▼パネラー
斎藤広樹(現・母校野球部監督、秋田高OB。甲子園2回出場)

石川 徹(鳳鳴4期・元野球部員)
栗盛信太郎(鳳鳴18期)



阿部政文氏(鳳24)

齋藤誠治(鳳鳴17期・元鳳鳴野球部監督。現母校野球部後援会及びOB会理事長)

最初に東京鳳鳴会会長・村上芳明よりシンポジウムへの参加と多額の寄付金応募に感謝とお礼の開催挨拶があり、本題が開催された。

◆基調講演||阿部政文

〈野球経歴||鳳鳴野球部時代||夏の甲子園ベスト4進出。秋田県能代選抜高校野球優勝。早稲田大学野球部||投手として活躍。6大学リーグ戦出場優勝。日米大学野球大会出場。社会人野球大会||大昭和製紙野球部入部・都市対抗優勝。三菱自動車野球部投手として都市対抗戦出場。現、三菱自動車勤務)「私の野球歴は5つのチームと出会った9人の監督によって培われ

たもの。鳳鳴高校野球部時代は、本日のパネラーである齋藤誠治氏が監督で誰よりも甲子園へ行きたい、情熱の監督であった。後の私の野球人生に大きく影響を受けた。監督はチームに大きく影響する。私の早稲田在籍中の監督は殿堂入りした石井藤吉郎監督と石山監督。



照明設備が設置されている母校野球練習場

この大監督は選手の素質を見抜く眼力の持ち主であり、科学的なトレーニングやメンタル面を重視し、単なるスパルタ式ではなかった。明治大学の島岡監督には練習態度のことで顔を殴られたが、他校生といえども真剣な練習を要求する監督の教えであったと感じている。以上の経験からも母校の甲子園への道は監督・コーチの存在が大きい。幸いに現監督が甲子園出場経験者であることが、何よりも心強い。社会人野球の大昭和製紙での教訓は、勝つことを知っている、勝つ方法を知っているということ。大事なことは、目標を強く持つことである。高い目標(甲子園出場)を掲げて技術の向上と精神力の高揚がバランス良く絡めば、道は開ける。」

☆ 第10期卒業は幸運の星 ☆

当番幹事の平成20(2008)年は

創立110周年記念だ

私どもは鳳鳴卒50周年

「オンステージ50」で盛り上げよう

- 創立 1898 (明治31)年3月21日 秋田県第二尋常中学
- ↓ 明治32 秋田県第二中学
- ↓ 明治34 秋田県大館中学
- ↓ 1939 (昭和14)・己卯 / (昭和15)・庚辰 誕生
- 50 1948 (昭和23)年4月1日 県立大館鳳鳴高等学校
- ↓ 小/中/高等学校
- 60 1958 (昭和33)年3月 第10期卒業 (定時制廃止)
- ↓
- 110 2008 (平成20)年3月 第60期卒業